

群 教 セ	G02 - 03
	平18.234集

# 地理的な見方や考え方を育てる指導の工夫

— いくつかの分布図を比較・関連させて  
地域的特色を考察する活動を通して —

特別研修員 木村 浩紀 (桐生市立新里中学校)

## 《研究の概要》

本研究は、中学校社会科の地理的分野の(2)地域の規模に応じた調査のイ 都道府県において、調べる視点に基づいて分布図を作製し、それを地形図や年平均気温分布図や人口分布図などのいくつかの分布図と比較・関連させる活動を取り入れることで、群馬県の地域的特色を明らかにし、また、調べたことの共有化を図ることで、群馬県全域の特色を明らかにし、地理的な見方や考え方を育てる活動を行った。

## ○ はじめに

現在の社会は非常に変化の激しい社会であり、これからの社会も激しい変化が予想される。この変化の激しい社会に対応していくためには、子どもに、知識、技能及び思考力、判断力、表現力、学ぶ意欲、自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力という「確かな学力」を付けさせることが重要である。

「確かな学力」の育成のためには、まず基礎・基本の徹底が求められる。地理学習における基礎・基本とは、ある地理的事象について問題意識をもち、その問題を解決していくために必要な力と考える。つまり、地理的事象を比較・関連・総合して多面的・多角的に見たり考えたりして、問題を解決する能力である。

しかし、本学級の生徒の実態をみると、調べる活動は好きで意欲的に調べようとするけれども、調べたことで満足している生徒が多く、調べたことを比較したり、関連させたりして考察することはまだ十分であるとはいえない。そこで調べたことを多面的・多角的に見たり考えたりさせる必要があると考える。

そこで、課題解決的な学習の過程において、自分が調べる視点に基づいていくつかの分布図を作成し、比較・関連させる活動を取り入れることで、地域的特色を明らかにすることができ、地理的な見方や考え方を育てることができると考えた。

そのためには様々な資料を適切に収集、選択、

処理、活用する必要がある。まず、資料の収集、選択は自分の調べる視点に照らして行うことが大切である。そして、地域的特色を明らかにするために、調べる視点に基づいて、空間的配置に規則性があるか、地域の環境諸条件とどのようなかわりがあるか、他地域との結び付きがどのように影響しているのかなどについて考察する。

また、生徒が調べたことを交流させ、共有化を図ることで、地理的事象を多面的・多角的にとらえて、群馬県全域の特色をより明らかにし、地理的な見方や考え方を育てることができる。

以上のことから、課題解決的な学習の過程において、調べる視点に基づいて分布図を作製し、比較・関連させる活動を取り入れ、地域的特色を明らかにし、地理的な見方や考え方を育てたいと考え、本研究を設定した。

## I 研究の概要

### 1 基本的な考え方

#### (1) 地理的な見方や考え方について

地理的な見方や考え方とは、どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりで地理的事象として見だし、それらの地理的事象を地域という枠組みの中で考察することである。そうした地理的事象がなぜそのように分布しているのか、環境条件や他地域との結び付きに着目して、その背景や要因を考えることである。

また、それらの地理的事象がみられるところが、

地域という枠組みの中で、一部についていえることなのか、あるいは、地域全体にいえることなのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることをふまえて地域的特色をとらえ、考えることである。

## (2) いくつかの分布図と比較・関連させる活動について

分布図と比較・関連させる活動とは、都道府県調べにおいて、全国のデータと比較しながら、「農業」「工業」「商業」「生活・文化」などについて見いだされた群馬県の特徴と思われる地理的諸事象を、土地の様子を示した土地利用図や雨温の様子を示した気候の分布図、あるいは人口分布図や交通網図等と関連付けて考えさせる活動を行うことである。

例えば「なぜそこでそのような農作物が作られるのか」、「なぜそこはその産業が盛んなのか」などということを考える時に、「その農作物は気候や土地の様子と密接な関連がある」、とか「その産業は気候とは関連はないが、土地の様子と人口と関連がありそうだ」などと、土地利用図や気候の分布図や人口分布図と関連付けて考えさせることで、その地理的事象が見られる背景や要因を考えることができる。さらに、その時に県内の地域差を考慮しながら県全体を眺めさせることで、地理的事象を多面的・多角的にとらえて地理的な見方や考え方を育てることができる。

なお、群馬県の特徴と思われる地理的事象を扱う際には、予めその地理的事象が地形と関係があるか、あるいは交通と関係があるかなど何らかの切り口で着目して調べさせることで調べる視点を

## (2) 研究の方法

### ① 実践の計画

対象	桐生市立新里中学校 1 年 B 組 (39 名)	単元名	都道府県を調べよう (群馬県)
実施期間	平成 18 年 11 月上旬～11 月下旬		

### ② 抽出生徒

A	理解する力はあるが、物事を論理的に考えることが多少苦手であるので、他の人の考えを聞くことで、自分の考えを広げさせたい。
B	学習に意欲的に取り組んでいる。表現力もあり、自分の考えをしっかりとまとめることができ、作業も丁寧である。ただ、積極的に挙手することが少ないので、他の人の考えを聞いて自分の考えを確かめることで自信をつけ、発表する機会をもてるようにさせたい。

明確にもつことができると考える。

## 2 研究の内容及び方法

### (1) 研究の内容

#### ① 研究の手立て

ア つかむ過程において、県のデータを全国と比較して県のおおよその特徴をつかむ活動を行い、調べる視点を明確にもてるようにする。

イ 調べる過程において、調べる視点に基づいて作製した分布図をいくつかの分布図と比較・関連させる活動を行い、地域的特色を明らかにし、地理的な見方や考え方を育てるようにする。

ウ 深める過程において、学習したことの共有化を図る活動を行い、地域的特色をより明らかにし、地理的な見方や考え方を育てるようにする。

#### ② 学習したことを共有化するとは

生徒は自分が調べた内容についてはよく理解できるが、それだけでは群馬県の一側面を調べたに過ぎない。群馬県全域の特色を知るには、他の生徒が調べたことと合わせて考察することで群馬県全域の特色を考えることができる。つまり、生徒同士に学習した内容や方法を交流させ、共有化を図ることが大切になってくる。生徒が学習したことを交流することで、自分の調べた視点と違う視点から群馬県全域を見渡すことができ、地理的事象をさらに多面的・多角的にとらえて、地理的な見方や考え方を育てることができる。

### (3) 単元の目標と評価規準

目	群馬県の自然や産業、他地域との結び付きなどを調査することを通して、群馬県全体の地域的特色や群馬県は様々な地域から構成されていることを理解するとともに、都道府県規模の地域の調べ方を身に付ける。			
評	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
価 規 準	群馬県の地域的特色に関心を持ち、課題を設定し、意欲的に調べようとしている。	群馬県の地理的事象について課題を見だし、それを成り立たせている背景や要因について、視点に基づいて様々な資料を適切に選択、活用して考察することができる。	地図や統計などから群馬県の地域的特色を読み取り、考察した過程や結果をまとめることができる。	群馬県の地域的特色とそれを成り立たせている背景や要因を地域の自然条件や社会条件や他の地域との結び付きなどの面から説明することができる。

### (4) 指導計画

過程	時間	主な学習活動・内容	形態	指導上の支援及び留意点	評価項目(評価方法)
つかむ	1 A 手 立 て ア V	○ 全国的な視野から見て群馬県の農業や工業などの特徴をつかみ、調べる視点をもつ。	一斉	○ 他県の中学生のアンケート結果から、群馬県がどのようなイメージでとらえているか確認するとともに、本学級の生徒もどんなイメージであったか確認する。 ○ 群馬県の農業や工業などのデータを全国と比較させて群馬県のおおよその特徴をつかませて、調べる視点を考えさせる。	○ 調べる視点を明確にもつことができる。【関】 (ワークシート)
調べる・まとめる	2	○ 群馬県の土地利用図と年平均気温分布図から群馬県の自然や環境の特徴をつかむ。	一斉 ↓ 個人 ↓ 一斉	○ 地形図を参考に群馬県の主な山や川を確認して群馬県の地形を確認する。 ○ 白地図で群馬県内の主な市を確認するとともに、群馬県の土地利用図、年平均気温・降水量分布図を作製し、群馬県の特徴をつかませる。 ○ 土地利用図と年平均気温・降水量分布図は別々の用紙で製作させて、いつでも参考にできるようにさせる。 ○ 群馬県の地形や土地利用の様子と年平均気温・降水量の分布とは関連があるのかを考えさせる。	
	3	○ 群馬県の人口の偏りと群馬県の交通網の特徴をつかむ。	一斉 ↓ 個人 ↓ 一斉	○ 群馬県の人口分布図を作製し、群馬県の人口の特徴をつかませる。 ○ 群馬県の交通網の様子を確認して、群馬県の交通の特徴をつかませる。 ○ 人口分布図と交通網の図は別々の用紙で製作させて、いつでも参考にできるようにする。 ○ 群馬県の人口分布と交通網と関連があるのか考えさせる。	

	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 8 手 立 て イ V	○ 調べる視点に基づいて、調べ学習を進める。  ○ 調べる視点に基づいて、グループごとにまとめる。	個人   グループ	○ 調べる視点に基づいて収集した統計資料から分布図を作製し、前時までに作製した分布図と関連がないか考えさせる。 ○ 調べる際には教師が予め用意した資料を参考にさせたり、図書室やインターネットからも資料を探させたりする。 ○ 調べる視点が同じ生徒同士でグループを形成させて、調べ学習の進捗状況を確認したり、補足したりさせる。 ○ 作製した分布図の広がりの方の背景や要因を、いくつかの分布図と比較して、どの分布図と最も関連があるかグループで相談させる。 ○ グループの人数は多くても5人までとする。	○ 調べる視点に基づいて作製した分布図をいくつかの分布図と比較・関連させて考えている。【思】 (ワークシート)
深 め る	8 ・ 9 手 立 て ウ V	○ 調べたことの発表会を通して、自分が調べたこと以外の群馬県の特徴を知る。	グループ ↓ 一斉	○ 発表内容を自分の調べた内容と比較させて、関連がないか考えさせる。その際には、関連がありそうな内容をいくつかでも比較してよいこととする。 ○ ワークシートに関連があることを理由付けをしながら記入させる。 ○ 群馬県の特徴を考える際には、数人で相談しながら、まとめさせる。	○ 発表内容を自分の調べた内容と比較して、関連を考えたり、群馬県の特徴を考えたりしている。【思】 (ワークシート)
	10	○ 群馬県の特徴を表すキャッチフレーズを考え、発表する。	グループ ↓ 一斉	○ 自分が調べた視点を中心にして、キャッチフレーズを考えさせる。	○ 群馬県のキャッチフレーズを考えている。【思】 (ワークシート)

## II 実践の概要

### 1 つかむ過程において、県のデータを全国と比較して県のおおその特徴をつかむ活動

本単元の導入では、群馬県の特徴を調べる学習に意欲をもたせるために、他県の中学生から見た群馬県のイメージの表(資料1)と本学級の生徒から見た群馬県のイメージの表(資料2)を活用した。まず、資料1を取り上げて他県の中学生在群馬県のことをほとんど知らないのので、他県の中学生にも群馬県を紹介できるようにすることを確認した。

次に、資料2で、紹介するためには、まだ群馬県についての知識が断片的であるので、群馬県の特徴を深く調べていくことを確認した。

資料1 他県の中学生から見た群馬県のイメージの表



**資料2 本学級の生徒から見た群馬県のイメージ**

1年B組(37名)の結果(複数回答)					
第1位	鶴の形をした県	16名	第6位	自然が多い	8名
第2位	温泉がある	14名	第7位	海がない	8名
第3位	山が多い	12名	第8位	織物が有名	7名
第4位	いなか	9名	第9位	利根川がある	5名
第5位	こんにゃくが有名	8名	その他		42名

それから、群馬県の農業と工業について全国的上位を占めるデータを取り上げて、実は群馬県には、農作物では全国順位が5位以内に入る農作物が20種類以上もあること、工業製品では全国順位が5位に入るものが15種類以上もあることを意図的に強調して取り上げた。(資料3・4参照)

**資料3 全国5位以内の群馬県の農産物**

＜群馬県の主な特産品＞				
	品目	生産量(t)	全国割合	全国順位
野菜	きゅうり	70,500	10%	1
	キャベツ	200,000	15%	2
	しゅんぎく	4,210	10%	3
	ほうれんそう	24,400	8%	3
	にら	5,230	8%	4
	ちんげんさい	3,450	8%	4
	なす	23,400	6%	4
	ブロッコリー	5,660	5%	4
	やまいも	8,480	5%	4
	えだまめ	5,670	7%	5
	ねぎ	26,500	5%	5
	レタス	29,700	5%	5
	スイートコーン	11,600	4%	5
はくさい	33,500	3%	5	
穀類	小麦	38,300	4%	3
果樹	梅	8,170	9%	2
きのこ類	生しいたけ	5,179	8%	1
	まいたけ	4,155	9%	3
畜産	なめこ	2,067	8%	4
	肉豚	1,106,095	7%	4
工芸作物	生乳	275,086	3%	4
	こんにゃくいも	54,700	87%	1
	蕎(まゆ)	350	46%	1
(参考)	米	87,000	1%	33

〔平成15年度農林業センサス〕

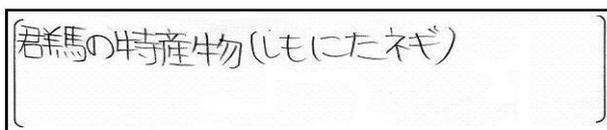
**資料4 全国5位以内の群馬県の工業製品**

＜群馬県の主な工業製品＞				
	品目	出荷額(百万円)	全国割合	全国順位
電気製品	冷凍機	40,218	14%	1
	冷凍・冷蔵ショーケース	43,780	34%	1
	電気冷蔵庫	22,671	5%	2
	自転車用発電ランプ	1,668	63%	1
	スピーカー・マイクロホン	39,244	23%	1
	トランジスタ	64,126	12%	2
自動車部品	エンジン発電機	5,208	7%	2
	シャシー部品・車体部品	164,123	7%	3
繊維	カークーラー	44,368	7%	3
	糸糸	1,570	34%	1
食品	絹紡織物	597	34%	1
	野菜漬物	35,983	7%	4
	みそ	27,055	4%	4
	しょうゆ	10,936	7%	3
	こんにゃく粉	12,901	63%	1
	即席めん類	36,319	11%	1
	清涼飲料	167,268	11%	2

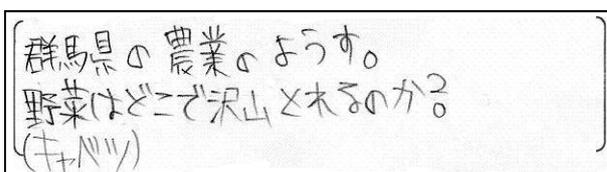
〔平成12年度工業統計表〕

そして、農業や工業の概要をつかませた後で、それらが全国的に目立つ背景や要因を、群馬県の地形や気候あるいは交通網と関連があるかどうかという点に着目しながら考えていくことを確認した。生徒は、群馬県の特産物や工業製品の特性に気付き、意欲的に学習に取り組もうとする姿勢が見られ、調べる視点を明確にもつことができた。(資料5・6参照)

**資料5 A女の調べる視点**



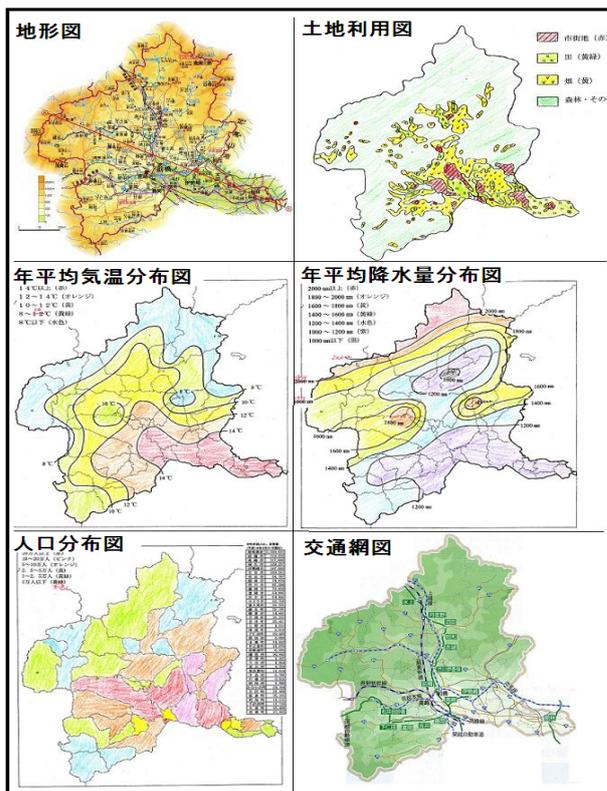
**資料6 B女の調べる視点**



**2 調べる過程において、調べる視点に基づいて作製した分布図をいくつかの分布図と比較・関連させる活動**

追究する過程の2・3時では、まず資料7の①～⑥の分布図を使って群馬県の自然条件や社会的条件からみた特色を考えた。

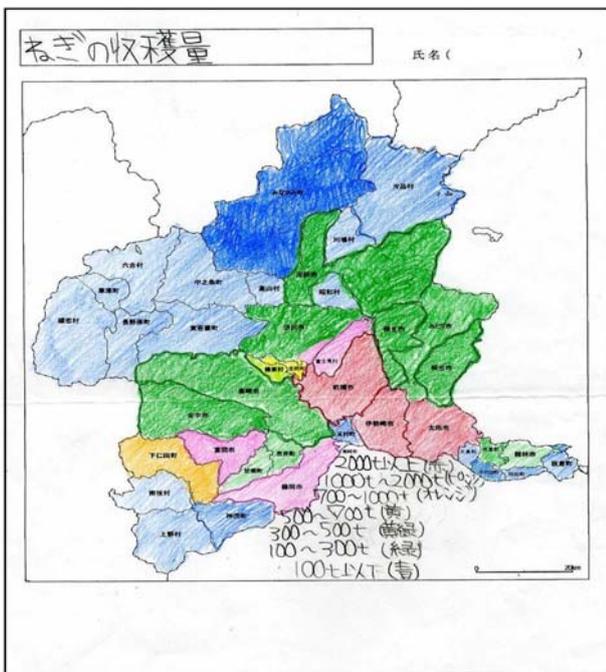
**資料7 比較させる分布図①～⑥**



次に、4～7時では、農作物や工業製品などの分布図を作製し、資料7の①～⑥の資料と比較させて、関連があるかどうかを考えた。A女はまず、資料8・9のように自作のネギの分布図を①～⑥の分布図と順次比較していきながら、気付いたことを書いていった。しかし、これだけでは地理的事象の表面的なところをとらえただけに過ぎない。そこで、①～⑥の分布図のうち、分布がそのように広がっている訳はなぜなのか、また、どれともっとも関連が深いのか、を考えるように支援した。

このネギの分布を調べたA女は、「生育条件や地形との関連が深い」「東京へ輸送を考えると交通網とも関連が深い」という考えをもつことができた。

資料8 A女が作製した分布図



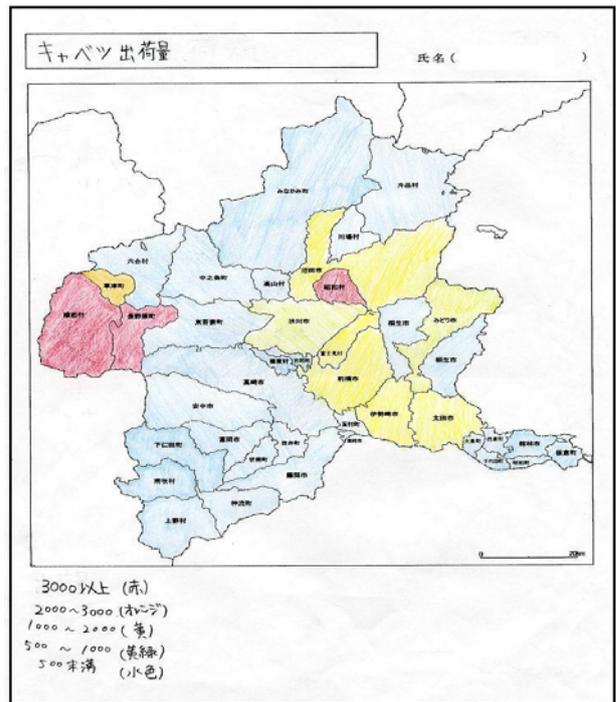
資料9 A女が自作の分布図と関連があるか調べた表

気づいたこと	比べた分布図
平地に田や水田が集中している	B・A
気温が低い所は森林が多い	B・C
人口が多い所は田や水田が多い	B・E
平地な所はネギの収穫量が多い	A・④
前橋市・高崎市・太田市など人口が多い所	

またB女は資料10のようにキャベツの出荷量の分布図を作成し、資料7の④と⑥と関連させていた。B女ははじめ、「④と比べて雨があまりふらないところで作られている」「⑥と比べて交通網が発達していないところで作られている」などと書いていたが、まとめる段階では、群馬のキャベツ

が日本の各地に出荷されていることについて触れていた。

資料10 B女が作製した分布図



このように、生徒が農作物や工業製品などの自分が調べたものの分布の広がりや背景や要因を①～⑥の分布図と比較・関連することで、地域的特色を明らかにすることができたと考える。

また、後日、分布図を使った学習はどうだったか質問したところ、25名の生徒が「分かりやすかった」「表よりも分布図の方が一目で分かる」「比べる時に比べやすかった」などと答えていた。生徒にとって分布図を使った学習は、地理的事象をつかみやすく、他の地理的事象と比較もしやすく、地理的に見たり、考えたりしやすかったと考える。

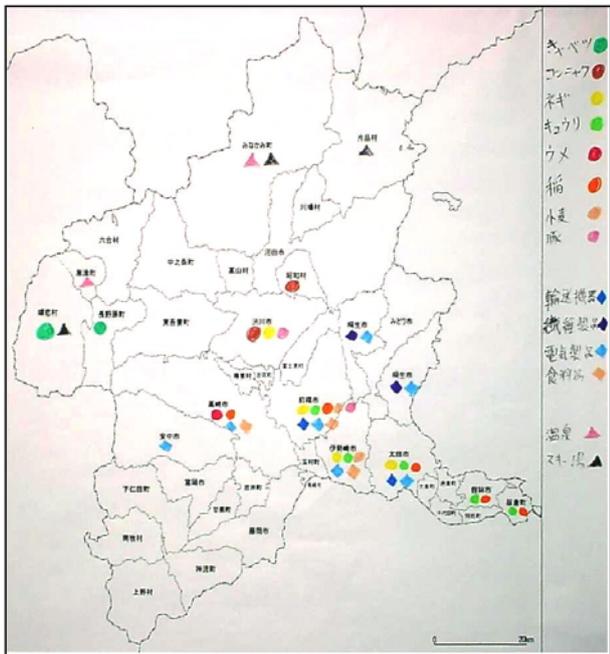
### 3 深める過程において、学習したことの共有化を図る活動

深める過程においては、まず、生徒は自分が調べたことを発表し合った。生徒が発表した特徴は教師が提示用の群馬県の白地図に色ペンで丸印を付けながらまとめていった。(資料11参照)

生徒も学習プリントに板書と同じようにまとめていった。発表が一通り終わったところで生徒は、自分が調べた分布図と関連がある分布があったかどうか考えた。生徒が書いた内容を見てみると、例えば、「ネギが作られているところでは、他の野菜も作られている。」「輸送機器と電気製品を製造しているところはほとんど同じである。」な

どと自分が調べた分布図と関連があると答えた生徒が10名いた。逆に「コンニャクは標高が高いところで育つので、平野で生産されている農作物とは重ならない。」「温泉の宿泊施設数は他の分布とは関係ない。」などと自分が調べた分布図と関連がないと答えた生徒が11名いた。

**資料11 生徒の発表をまとめた板書**



関連のあるなしにかかわらず、生徒は、自分が調べた分布図と他の生徒が調べた分布図を比較することで、群馬県について自分の調べた視点と違う視点から群馬県全域を眺めることができ、群馬県の特徴をまとめるステップとなった。

次に、群馬県の特徴を小グループで練り合いながら自分の考えをまとめた。生徒が書いた内容を見てみると、資料12のように群馬県の特徴を農業や工業など2つ以上の要素を挙げて述べた生徒が27名いた。群馬県の特徴を1つだけの特色で述べた生徒は11名であった。

なお資料13・14のようにA女もB女も群馬県特徴を2つ以上の要素を挙げて答えていた。群馬県の特徴を2つ以上の要素を挙げて述べているということは、多少なりとも地理的事象を多面的・多角的にとらえているということができたと考えられる。

また、他の人の意見を聞いて参考になったかどうか質問したところ、「違う意見を聞いてよかった。」「自分の考えと違う意見もあることが分かった。」「自分と異なる意見も参考になった。」などと答えた生徒が30名いた。生徒にとって小グル

ープで練り合いながら群馬県の特徴を考えたことは、自分の考えをより広げたり、より深めたりすることができたと考える。

**資料12 群馬県の特徴をまとめた例**

群馬県は農作物が豊富で製品のせいけんも多量だと思う  
 温度の差がありその温度にあった野菜がとれる

群馬県は農業と工業が両方つくられていて、南側に多量つまっていて、北側には農業も工業もあつま、ていない。  
 前橋に多量つまっていたのは意外だ、で、工業製品は北側にあつま、て( )たよ( )

市街地内人口が多い。気温が高い(平野)所や畑(田)所、農作物が多量作られている。群馬県南部にはほとんど工業と農作物が発達している。群馬の交通網が通っている所には工業製品が作られている。前橋市、桐生市は平均して、工業、農作物が多い。

前橋市、桐生市は平均して、工業製品の出荷額も、農作物が多い。群馬の交通網が発達している所は工業製品が作られている。

**資料13 A女がまとめた群馬県の特徴**

北部にはたがが少ない市街地にはたの数が多( )  
 輸送機器は各地で沢山作られている  
 キュウリは平地に作られている  
 南部にはたが多( )見られる

**資料14 B女がまとめた群馬県の特徴**

群馬の交通網がはたついている所では工業製品が作られている。  
 かつ群馬全体でたぐの農作物工業製品が作られている。  
 群馬県南部では工業と農作物はたついている  
 前橋市桐生市は平均して工業製品の出荷額も農作物が多い。

生徒は自分たちが調べた内容が白地図にまとめられたことによって、群馬県の地域的特色をふまえながら、群馬県全域の特色をつかむことができ、地理的な見方や考え方を培うことができたと考えられる。

**VII 研究のまとめ**

**1 成果**

本研究では、地理的な見方や考え方を育成する手だてとして、いくつかの分布図を使って、それらを比較したり、関連付けたりする活動を行った。生徒にとって、分布図は一目で分布の様子が分か

ったり、関連がありそうな組合せを手元において比較したりしたので、これらの活動は地理的な見方や考え方を育成する手だてとして効果的であったと考える。

## 2 課題

調べる過程において、自作の分布がなぜそのように分布しているのかを考える際に、いくつかの分布図と比較しながらも、より深く、もう一步踏み込んで、その分布の背景や要因を考えることが難しかった生徒がいたので、今後は、より有効な支援の方法を工夫する必要がある。

(担当指導主事 峯岸 哲夫)

### Web検索キーワード

【社会—中 地理的分野 都道府県 分布図  
見方や考え方】

### <参考文献>

- ・『観点別学習状況の新評価基準表』 北尾倫彦、  
 祇園全禄 編集 図書文化 (2002)
- ・『基礎・基本の習得をめざす新しい授業実践』  
 高山博之 編著 東京法令出版 (2005)
- ・『課題解決力を育てる授業の設計』 高山博之、  
 水山光春 編著 日本文教出版 (2004)